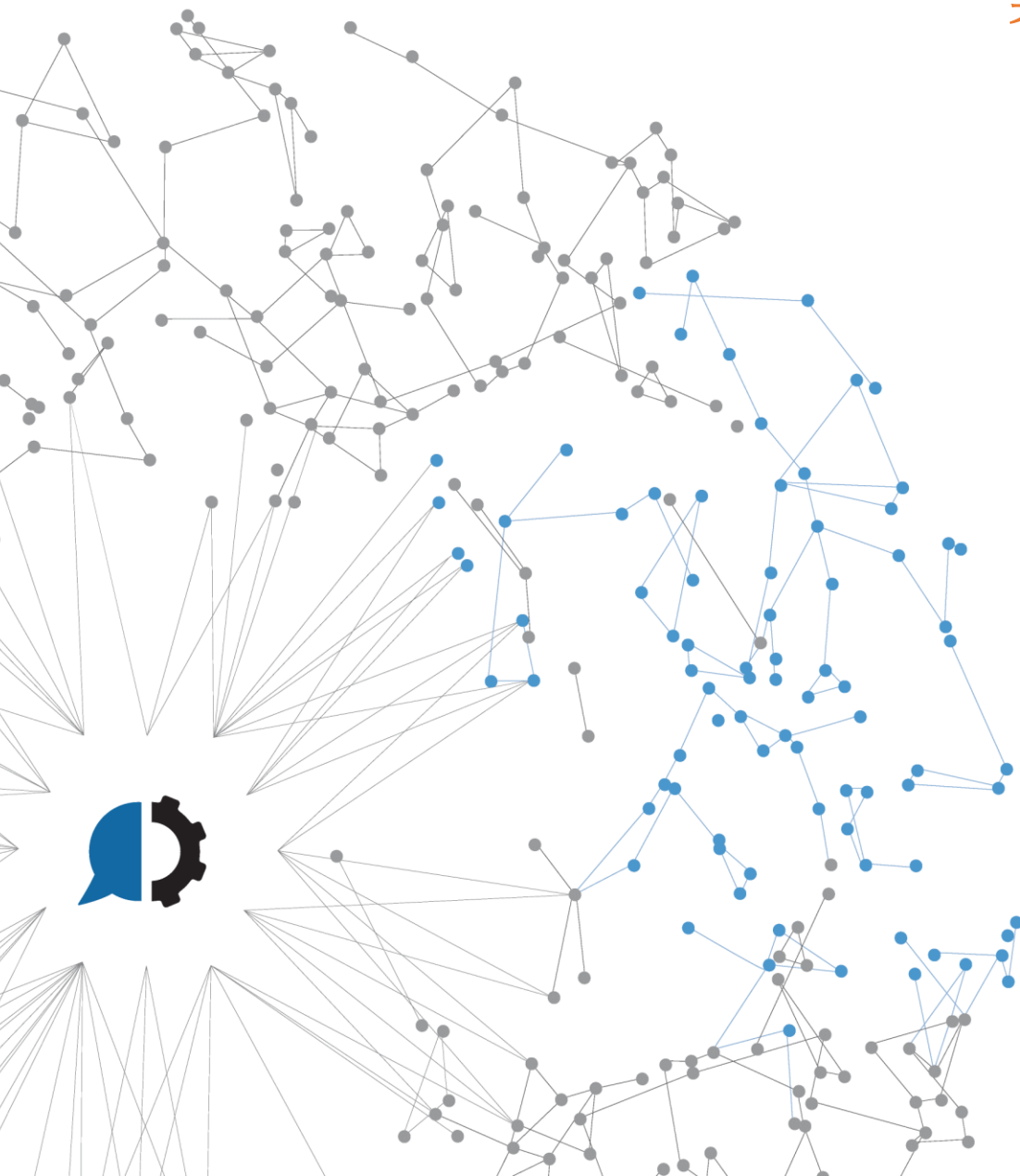




helpsystems

SLACK BOT

実行結果通知





内容

概要.....	3
前提条件.....	4
AUTOMATE タスクをインポートする方法	6
SLACK BOT の実行方法 - 実行結果の通知について	7
付録 A – SLACK の通知例	9
付録 B – トラブルシューティング	10



概要

このハウツーガイドでは、「Slack Bot - 実行結果通知」についてご紹介します。AutoMate は、反復的なマニュアル作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに、ロボティック・プロセス・オートメーションによって IT やビジネスプロセスを合理化します。AutoMate は手作業を代行することで、反復的な作業を大幅に減らし、作業の質と一貫性を向上させることができます。自動化される主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポート・エクスポート、バッチ処理のスケジューリングなどです。

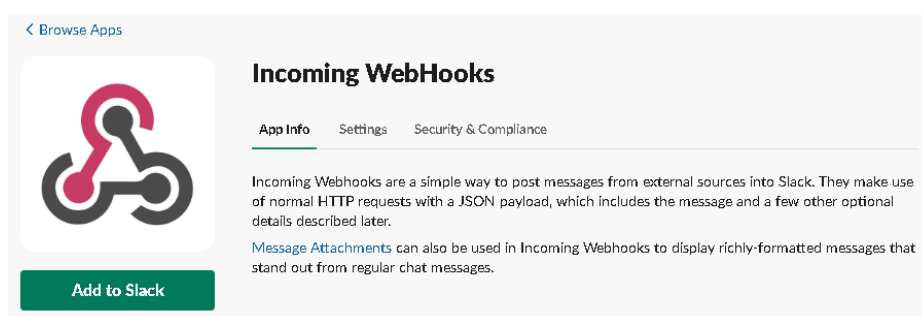
「Slack Bot - 実行結果通知」は、Slack Incoming Webhook コネクタ/アプリをベースにしています。特定の Slack チャンネルにカスタム通知/メッセージを送信します。ワークフロー実行時に利用でき、タスクやワークフロー名、メッセージの種類（Success か Failure か）、失敗時の原因などを設定することができます。HelpSystems Insite for AutoMate を使用している場合、通知から AutoMate Enterprise Activity ビューに直接移動して詳細を確認し、ワークフローの実行を管理できるように、その URL を設定することも可能です。

このように、組織内の重要な自動化プロセスの実行結果を常に把握することができます。



前提条件

- **AutoMate:** Slack Bot は、AutoMate ソフトウェアに依存して動作します。最低限サポートされているバージョンは以下の通りです。
 - **AutoMate Ultimate 11.2**
 - **AutoMate Plus 11.2**
 - **AutoMate Desktop 11.2**
- **Automate Markup Language file (.AML):** Slack Bot タスクのステップを含む Automate で使用される主要なファイルタイプです。
- **Slack:** 最低限必要な要件は以下の通りです：
 - **Slack App – Incoming Webhooks:** Webhook アプリをインストールし設定するためには、以下の設定が必要です：
 1. Slack 内で、Apps メニューを開き、[Incoming Webhooks]を検索し、"Add to Slack"ボタンをクリックします。





2. Incoming Webhooks の使用する投稿チャンネルを選択します。管理者権限がない場合は、Slack の管理者に新しい Incoming Webhook の作成を依頼してください。Slack Incoming Webhook コネクタのカスタマイズ名とアイコンを定義し、設定を保存します。

Integration Settings

Post to Channel
Messages that are sent to the incoming webhook will be posted here. [or create a new channel](#)

Webhook URL
Send your JSON payloads to this URL. [Show setup instructions](#) [Copy URL • Regenerate](#)

Descriptive Label
Use this label to provide extra context in your list of integrations (optional).

Customize Name
Choose the username that this integration will post as.

Customize Icon
Change the icon that is used for messages from this integration. or

Preview Message
Here's what messages from this integration will look like in Slack.

Automate Notificaciones APP 11:17 AM
This is what messages from this service will look like in Slack.

[Save Settings](#)

- **Slack Incoming Webhooks URL:** [Save Settings]をクリックした後、上記のステップで取得した URL を表します。これは、Slack チャンネルと、通知を送信するメンバーに関連付けられます。
- - Slack の接続値を設定するために作成する定数を自動化する:
 - **const_SlackWebhookURL:** 以前取得した Slack Webhook の URL.

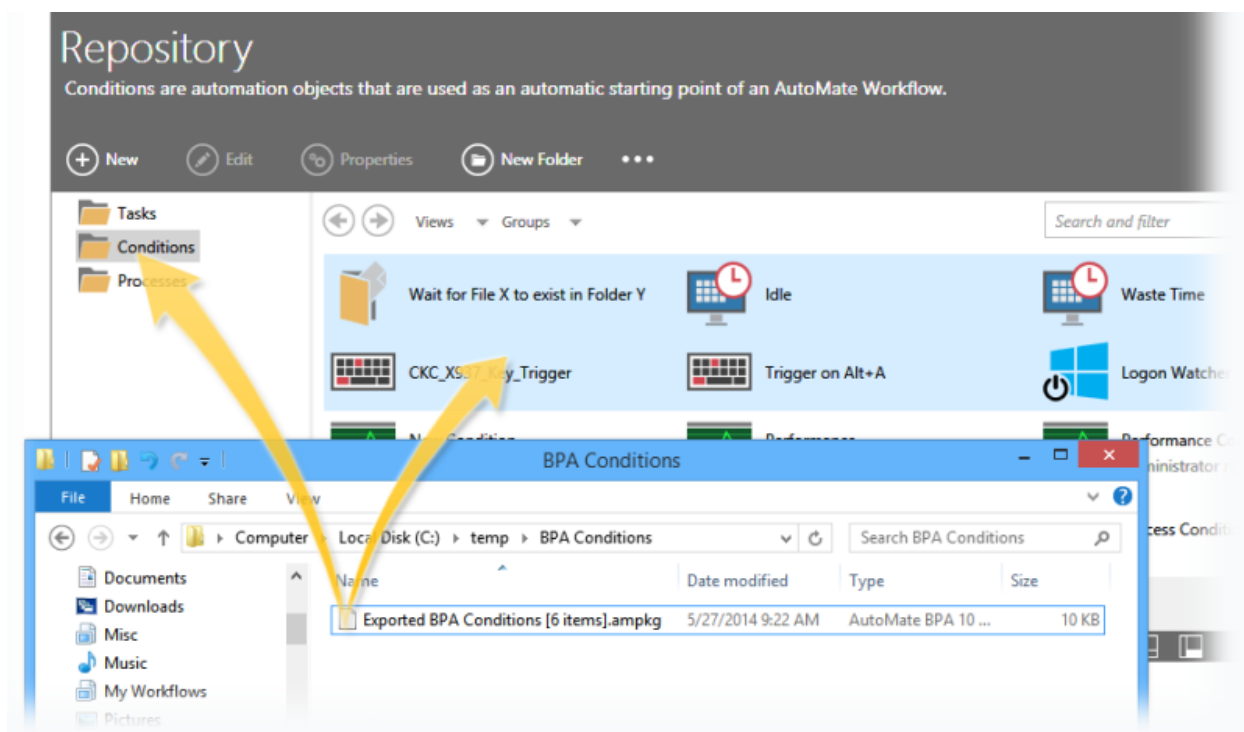


AUTOMATE タスクをインポートする方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでリポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソール(SMC)から、[リポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。



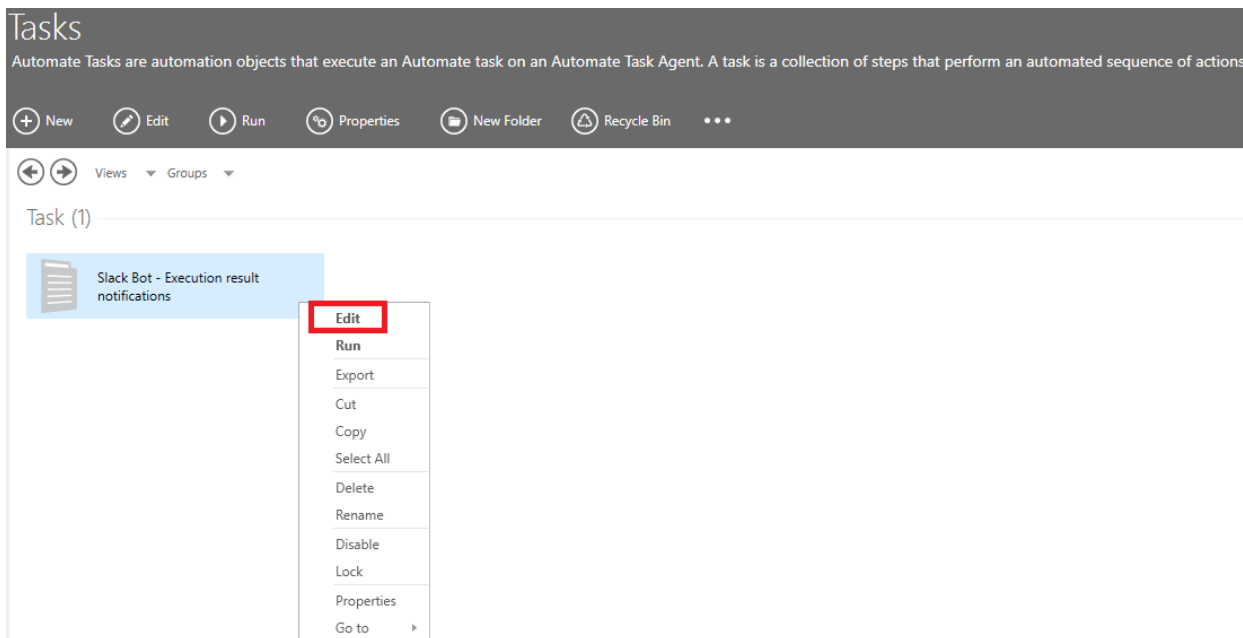


SLACK BOT の実行方法 - 実行結果の通知について

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、**編集**を選択して編集します。



ステップ 2 からは、希望する出力に応じて次の変数を編集してください。

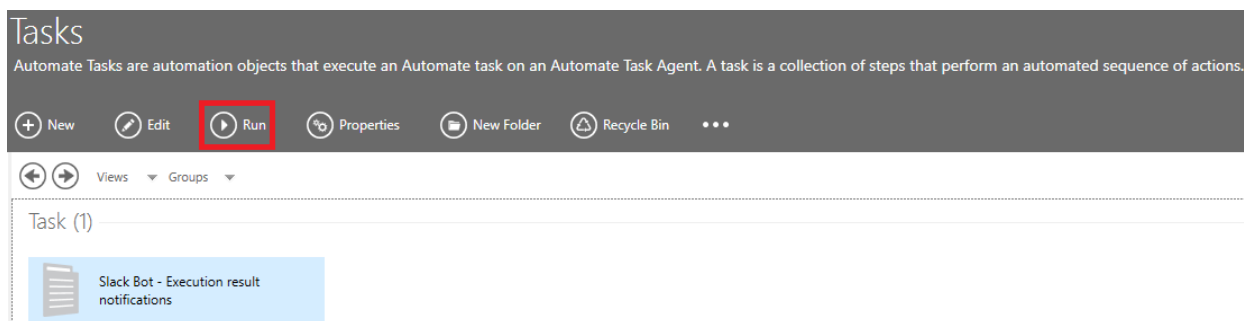
- **var_WorkflowName:** 実行されたタスク内のワークフロー名を返します。デフォルトでは、"GetWorkflowName()" 関数を使用して、自動的に取得します。
- **var_TaskName:** 実行されたタスクの名前です。デフォルトでは "GetTaskName()" と設定されており、自動的に取得されます。
- **var_Execution_Result:** 実行結果を取得します。送信するメッセージの重要度タイプに応じて、SUCCESS または FAILURE に設定します。
- **var_Execution_Critical_Message:** 実行に失敗した場合のエラー原因のテキスト。
- **var_InsiteURL:** ワークフローの実行を管理するために HelpSystems Insite for Automate にアクセスするための URL を設定します。



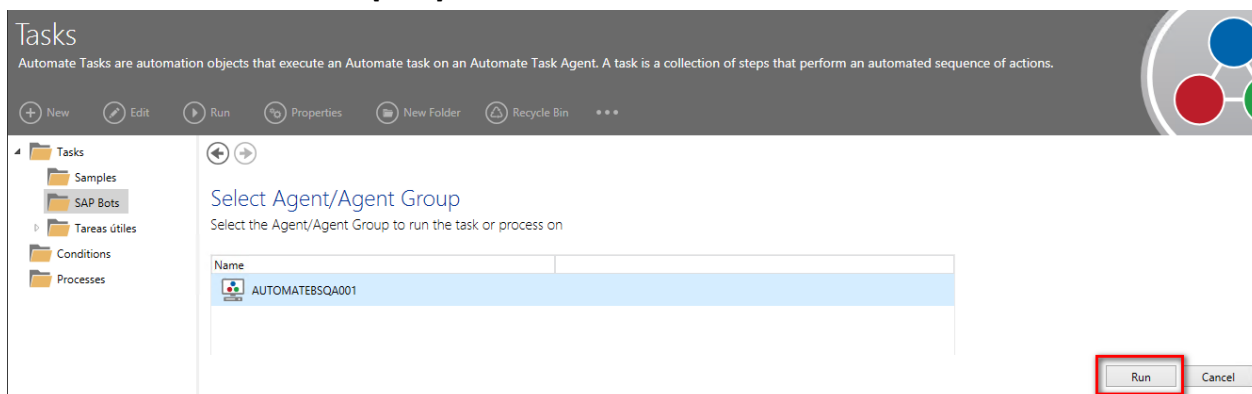
Note: これらの変数は、共有変数を使用することで、ワークフロー内で動的に設定することができます。

タスクを保存して閉じます。

タスクを選択し、「実行」をクリックします。




エージェントを選択し、再度[実行]をクリックします。





付録 A – SLACK の通知例

タスク成功時:


 **Automate Notificacions** APP 12:01 PM

✓ Workflow/Task has been executed ✓

Task Name	Date
Slack Bot - Execution result notifications	28/04/2020 12:01:06 PM
Result Status	
SUCCESS	

[Go to Insite for Automate...](#)

タスク失敗時:

 **Automate Notificacions** APP 1:46 PM

⚠ Workflow/Task has been executed ⚠

Task Name	Date
Slack Bot - Execution result notifications	28/04/2020 1:46:35 PM
Result Status	
FAILURE	
Error found in execution!	

[Go to Insite for Automate...](#)



付録B—トラブルシューティング

- ログ -各ボットはトラブルシューティングのためにログファイルを作成します。ログファイルは C:AutomateTasksTasks<<TASK NAME>>配下にあります。デフォルトでは、タスク名は「Slack Bot - Execution result notifications」です。

About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and Automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people